Presented by co-creative design studio

ヒトカラ NEWS
～ hitocolor ～

Vol.01
2019.09.01

ファシリテーションとは、その場にいる全員が話しやすい環境を作ることで参加者のモチベーションを高めたり、発想を促進する手法のこと。今回はファシリテーションを体験するとともに、「対話（＝ダイアローグ）」と「議論（＝ディベート）」の違いを学んだ。

議論は互いの意見を論じ合うこと。一方、対話は互いの意見の違いを受け入れて全員で話し合うなかで、ひとりでは考えつかない本質に気付いていくこと。

ファシリテーションと対話から飯南町の新たなまちづくりが始まる。

ファシリテーションと対話によるまちづくり

今回のヒトカラ

ヒトカラ2期生は16名。顔見知り同士でも対話をすると新しい発見ばかり。大人になっても新しい発見や学びは人をワクワクさせてくれる。

常識は、自分のなかに常にある当たり前のもの。でも、その当たり前だけが答えではないはず。自分の答えに疑問を持ったら、思い切って対話を始めてみよう。ひとりでは見つけられない答えでも、みんなの力があればきっと見つかるだろう。

コエカラ

「職場でも議論じゃなくて対話がしたい」「でも、難しいよね」受講生のリアルな声。

議論から対話へ。大きな変化はすぐには起こらないけど、何もしないと変化すら起こらない。まずは小さな変化から、自分から職場のなかで対話を始めよう。

Presented by co-creative design studio

ヒトカラ NEWS
～ hitocolor ～

Vol.02
2019.10.06

「飯南町ってどんなまち？？」が今回のテーマ。「飯南町といえば〇〇」「まちの1番好きな場所は？」といった質問からグループトークが始まった。

同じまちに住んでいるはずなのに、飯南町に対するイメージが異なる。考え方や目の付け所は人それぞれ。

まちの魅力を再認識することで、見慣れた景色や何気ない日常も、以前とは変わって見えてくる。もっとまちを知りたくなる。その気持ちがまちづくりの大切なエネルギー。

飯南町ってどんなまち？？

今回のヒトカラ

◆ 対話を通してまちの魅力を考える

「飯南町でどんな暮らしがしたいか」というテーマで個人ワークとグループトーク。「安全に暮らしたい」「畑の野菜で自給自足がしたい」「贅沢しなくていいから仲良しな友だちと楽しく過ごしたい」と様々。

一人だけでは決して思いつかない飯南町の魅力のヒントが、対話を通してたくさん見えてきた。

◆ 飯南町を知らない人にどう魅力を伝えるか

「東京で一目ぼれした異性を飯南町に呼ぶためには」というお題も。気になる相手を思い浮かべながら、知恵を絞った。

なかには、飯南町と都市を行き来する「二地域居住」という斬新なライフスタイルの提案もあった。

コエカラ

今回の会場は「古屋敷ガーデン中西邸」。受講生は「こんな素敵な御屋敷が飯南町にあるなんて．．．知らなかった。」と口を揃えた。

「ここには何もない」と言うけれど、知らないだけでこのまちには魅力が溢れている。まだ知らないまちの魅力を見つけに行こう。

Presented by co-creative design studio

ヒトカラ NEWS

〜 hitocolor 〜

Vol.03
2019.11.17

第３回テーマ「発明家的発想」は、そのテーマ自体独特だ。発想の方法なんて変えることができるのか。（※具体的方法は左下部参照）

田舎に住んでいても都会の情報は常に舞い込んでくる。インターネットやテレビがそうだ。

「人は、外から聞いたことをあたかも自分の考えのように話す」と山口氏（津屋崎ブランチLLP）は語る。

自分たちが住むまちぐらい、責任をもって自分たちで考え、いいまちにしていこう。

発明家的発想でアイデアを生む方法

今回のヒトカラ

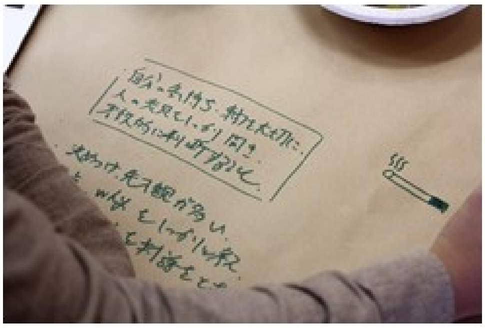
◆ ３つの発想法を習得
発明家的発想をするコツは以下の3つ。

①問題解決法
社会や地域、またはそこに住む人たちの困り事を解決する考え方。（例）行政施策全般

②水平思考法
Ａで行われているものをBにも導入する考え方。（例）特定保健用食品のコーラ

③組み合わせ法
既存のものを組み合わせるだけの方法。
（例）漫画＋喫茶店
＝漫画喫茶
布地＋ヒーター
＝ホットカーペット

コエカラ



「3つの発想法を学んだことで新しい考え方ができるようになった」（受講生の声）

ヒトカラを通じて改めてまちのことを知り、更には今回のように発想法も刷新していく。
ヒトカラは折り返し地点を迎えたが、受講生たちの中にも変化が起きようとしている。

Presented by co-creative design studio

ヒトカラ NEWS
～ hitocolor ～

Vol.04
2019.12.08

第４回ではこれまでの講座で学んだ考え方をもとに、受講生たちが飯南町でやりたいこと（地域づくりのアイディア）をかたちにしていく作業を行った。

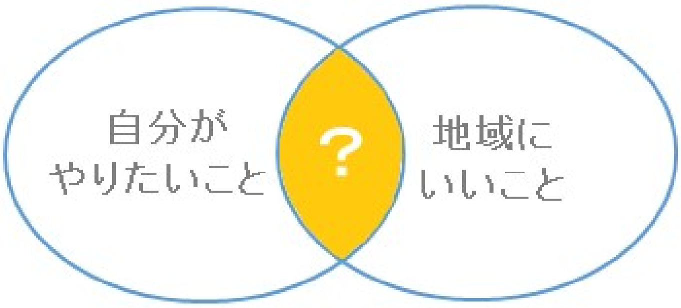
山口講師（津屋崎ブランチLLP）は、「考え事はひとりでするな。人の頭を使って」と受講生に言葉をかけた。

自分の考えを言葉にし、相手の言葉には耳を傾ける。すると、ひとりでは考えつかないアイディアが次々と生まれてくる。

一人ひとりが地域づくりを自分事として考えることがより良いまちづくりに繋がっていく。

共創の地域づくりのアイディアづくり

今回のヒトカラ



何かを始めるとき、そこには一歩を踏み出すリーダーとそれを支え、応援してくれる人たち（フォロワー）の存在がある。

「自分がやりたい」だけのアイディアにフォロワーは集まらない。しかし、自分のやりたいことを「地域にもいいこと」につなげるためのアイディアをひとりで考え出すのは難しい。

そこで重要なのが対話のチカラだ。自分のアイディアに周りの声が加わることで、自分だけのアイディアがみんなのアイディアへと変化していく。

コエカラ

「アイディアを出すのは苦手だけど、一緒にやってみたい」

地域づくりの主役はアイディアを生み出すリーダーだけではない。リーダーを支えるフォロワーの存在も必要不可欠だ。

受講生たちは今、それぞれの立ち位置で飯南町の地域づくりを考えている。

Presented by co-creative design studio

ヒトカラ NEWS
～ hitocolor ～

Vol.05
2020.01.19

第5回は、前回の第4回講座で作成したプロジェクトを実際に実行できる「ワクワクする企画」に変身させるため、受講生たちのアイディアに回転やひねりを加えながら最終的なプロジェクトを作成した。

これまでのヒトカラを通じて学んだ発想法や対話の重要性、なによりも受講生同士の横のつながり。

想うだけではかたちにはならない。想いをかたちにするには、ココカラ一歩を踏み出すだけだ。

アイディアづくり3回転3回ひねり

今回のヒトカラ

～3回転3回ひねり～ とは？

①泣いて喜ばせたい人は誰か
対象が具体的でないと企画は具体化しない！
②xデー（日時）を決める
「いつか」ではいつまで経っても実現しない！
③席替え
考え事はひとりでしない。人の頭を使って！

コエカラ

「まちのために」と考えるとなかなかアイディアも出てこない。でも、「あの人のために」と考えるとアイディアがどんどん出てくる。

想いをかたちにするときに大切なことは「誰に喜んでほしいのか」。まちの人を想うことは、まちを想うこと。